

今日は姫島小学校で1年に一度おこなっている「慰靈祭」の日です。

「慰靈祭」というのは、とても難しい言葉ですが、みんなで静かに手を合わせたり・静かに目をつむったりして、亡くなった方のたましいに、お祈りする機会です。怖かったですね・つらかったでしょうという気持ちを込めて、お祈りをする機会です。

今から87年前、昭和9年9月21日午前8時頃、おそろしい猛烈な台風が、この姫島地区の近くを通り過ぎました。「室戸台風」といいます。あまりの猛烈な風と、海があふれる高潮で、この姫島地区にも大きな被害が発生しました。

姫島小学校の校舎は、昔は今みたいな頑丈なコンクリートでできた校舎ではなく木でできた校舎だったので、あまりの猛烈な風にあっという間にメキメキと倒れてしまったそうです。そして、先生と子どもたち13人が下敷きになって亡くなってしまいました。

大阪市内の小学校全体では、同じように倒れてしまった校舎の下敷きになって、267人の先生・子どもたち・保護者が亡くなる大きな被害でした。想像してみましょう。怖いですよね。つらいですよね。

それでは今から、静かに目をつむって、この台風で亡くなった方に、怖かったですね・つらかったでしょうという気持ちを込めて、お祈りをしたいと思います。「黙とう」というお祈りです。校長先生が「黙とうはじめ」といったら目をつむってお祈りしてください。校長先生が「黙とうやめ」といったら目を開けてお祈りをやめてください。

毎年、大きな台風がやってきて、日本のあちこちに被害をもたらします。

幸い、今年は今のところ、大阪を直撃するような台風はありませんが、3年前の9月には台風21号が大阪を襲い大きな被害を出しました。

いつ再び、この姫島地区に大きな台風がやってきてても命を守れるように、あるいは、地震や津波など、他の災害からも命を守れるように、児童のみなさん、しっかり勉強して備えておきましょう。

以上で校長先生の「慰靈祭」のお話は終わります。